

令和5年度第1回 金峰山少年自然の家整備運営審議会 会議録要旨

I 開催日時

令和5年5月24日（水）午前9時～

II 開催場所

熊本市国際交流会館 3階国際会議室

III 出席者

【委員】

河上 強 委員長 （前 NHK 学園高等学校指導部長、元熊本市教育次長）

神毛 恵 副委員長（税理士、行政書士）

大西 康伸 委員 （熊本大学大学院 先端科学研究部 教授）

柿本 美樹枝 委員（設計事務所主宰、日本建築家協会）

吉田 洋一 委員（熊本学園大学 経済学部 准教授）

森 近 委員 （熊本県キャンプ協会 会長）

柴田 治穂 委員 （前黒髪小学校長、前熊本市小学校長会副会長） 欠席

沖永 千奈 委員 （熊本大学メイクフレンズ） 欠席

【熊本市】

（事務局）

原口 琢哉（地域教育推進課 課長）

小原 恵二（地域教育推進課 課長補佐）

寺崎 真治（地域教育推進課 主査）

神田 夏彦（地域教育推進課 参事）

坂田 蘭子（地域教育推進課 参事）

株式会社九州経済研究所

金峰山ビレッジ株式会社

IV 会次第

- 1 開会
- 2 地域教育推進課長挨拶
- 3 事務局職員紹介
- 4 委員長挨拶
- 5 金峰山少年自然の家新施設整備運営事業について
 - (1) これまでの経緯について
 - (2) 基本設計について
 - (3) 今後のスケジュールについて
- 6 その他
- 7 閉会

V 議事

1 開会

(司会)おはようございます。ただ今より、令和5年度第1回金峰山少年自然の家整備運営審議会を開会いたします。開会にあたり、原口地域教育推進課長よりご挨拶申し上げます。

(課長)皆様、おはようございます。このたび、教育委員会の組織改編に伴いまして、地域教育推進課長を拝命いたしました原口でございます。会議に先立ちまして、一言ご挨拶させていただきます。

委員の皆様におかれましては、大変御多用の中、本審議会に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日は、事業者の金峰山ビレッジ関係者の皆様、並びに熊本大学の西大先生ゼミ生の方々にご出席を賜りまして誠にありがたく感謝申し上げます。

さて、振り返りますと、令和3年8月の新施設整備基本計画策定に伴いまして、本審議会がスタートし、本日までの約1年9か月の短い期間の中で、実施方針や要求水準書等の策定、事業者選定審査基準、民間事業者の募集・選定に至るまで、大変な御苦労があったのではないかと推察をいたします。

子どもたちをはじめ、市民の皆様が、自然に親しみながら学び、遊び、考える自然体験の拠点施設をつくろうという熱い思いのもと、熱心にご議論を重ねていただいた結果、わくわくするような、実に素晴らしい施設の計画が作成されております。その取組に対しましても心より感謝申し上げます。

本日は、令和7年度の新たな野外教育施設の開設に向けまして、これまで以上に熱い議論と忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶にかえさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

(司会)続きまして、令和5年度の職員異動に伴い、事務局職員を紹介させていただきます。

(職員紹介)

(司会)続きまして、本審議会の成立についてご報告いたします。

本日、柿本委員はZOOMにてご参加いただいております。また、柴田委員、沖永委員は欠席でございます。つきまして、委員8名中、6名の出席ですので、本審議会運営要綱第6条第2項に基づき、本日の審議会が成立していることを御報告いたします。

それでは、ただ今から、協議に入ります。委員長よりご挨拶をいただきまして、議事進行をよろしくお願い申し上げます。

(委員長)皆さん、おはようございます。

今、新課長からご挨拶ありました。振り返ってみれば、この審議会も9回目ですね。

随分時間を費やして、しかも、皆さんの御協力のおかげで、慎重かつ有意義な審議が出来たのではないかと思います。

課長さんも3人目で大変だろうと思いますが、最後の仕上げに入ってきたとっております。我々が、時間をかけて審議してきた、まさに、理想的な新自然の家の姿が、絵にかいたもちにならないよう、あと僅かな審議会になるだろうと思いますが、本日も、慎重かつ、有意義な審議になりますよう、皆さんのご協力をよろしくお願いします。また本日は、事業者の方、熊大大学院の方の協力も得られると思います。

先ほど新施設の映像を見ていると、リゾートのスイートルームから外を眺めているようなスライドが映っていたような感じです。本日は、VR体験を楽しみにしています。それでは、よろしくお願いします。

まず、これまでの経緯について、事務局に説明をお願いします。

(事務局)

これまでの経緯について、会議資料を基に説明。

(委員長)ありがとうございました。ワークショップ等、精力的にされていると感じた次第です。それから審議会で我々が検討してきたことについても、対応されています。

ただ今の説明について、ご質問やご意見等がございましたら、お願いしたいと思います。どなたか、ございませんか。

(委員) 審議会の色々な意見を反映させていただいて本当にありがたいと思っています。今回新しい試みということで、分棟型のとてもユニークな自然の家ということで、事業が進められていくと思いますけれども、今回色々な形でワークショップとか地域の方々への説明会などをされました。

そういう中で、期待されていること。今回の計画に対する感想とか、出来ましたら、不安なことじゃなくて、これはいいねというような、何かそういった、わくわくするような、これから先、どういう形で、新施設を運営していくための御意見は、何かありましたでしょうか。

改善要望だけではなくて、これから先に望むようなことが、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

(委員長)我々としても非常に参考になることだと思います。何点かありましたらよろしく、お願いします。

(事務局)ありがとうございます。ワークショップの開催にあたりまして、まず、施設のイメージを、映像を使って説明しました。

新しい施設の映像を、子どもたちが目を輝かせながら見ていただいたのが非常に印象的でした。その中で意見が出たのは、まず宿泊棟については、ロフトがある、デッキがあると、いうところを非常に楽しみにされていると感じました。

子どもたちに人気のアスレチックでは、ジップラインを長く使用したいということで、ジップラインの場所や長さも意見を踏まえて、設置計画したところです。

それから、子どもも非常に期待をしておりました、自然の家で野外炊飯をぜひやりたいと、バーベキュー広場は大人も子どもも喜んでくれるんですけども、実際魚をさばいて料理して食べたいとか、ピザ窯を自分たちでつくりたいとか、子ども会の中高生リーダーは、野外炊飯の場所にテーブルが欲しいので、テーブル作りは私たちも出来ます、一緒につくれますとかですね。そういうふうに、もう利用を前提にした様々なご意見をいただいたところでございます。

地元の皆様たちは、好意的にこの施設の整備に関してはお理解をいただいているというふうに感じました。それまで地元のお子さんであったり、ファミリーであったり、高齢の方々もなかなか自然の家においでになる機会は少なかったと思いますけれども、学校利用がない場合は、予約していけるということで、非常に喜んでいらっしゃいました。

まちづくりともどのようにつなげるかということも、今後、一緒に考えていきたいと思います、河内校区の自治協議会の会長さんもおっしゃっていただきましたので、非常に期待が大きいというふうに思いました。その分、しっかりと整備をして、皆さんに喜ばれる、また、子どもたちに、この自然体験活動が効果的になるような運営が必要というふうに感じたところでございます。

それから、県キャンプ協会への事業計画説明時に、現役の小学校の校長先生もおいでいただいていたいました。分棟型ということで今までと違う部分もありますが、学校とも話しながら、また運営面、安全面等に支障がなるべくないように、一緒に考えていきたいと思いますというお話もいただいたところでございます。

(委員長)ありがとうございます。少し私も興味がありますが、遊具施設の中で、ジップライン、今のところ何メートル位つくれるかなと。これ非常に子どもたち喜ぶんですね。また、ボルダリングも高さは何メートル位ですか。後で教えていただければと思います。

ほかにご意見等ございませんか。

(委員)よろしく申し上げます。非常にきめ細やかにヒアリングしていただいて、またそれが、計画に反映しているということで、関係者の皆様に、まずお礼申し上げます。

全体の経営計画で何点か気になるところがありましたので、建築的なところと運営面についてお尋ねしたいと思います。

まず、今事務局からご紹介があったように、宿泊棟の分棟について、部分的にも連棟にするかどうかというのは、計画が採用されるときに、話が出たと思うんですが、一部分も連棟にしないで全部個別で行くっていうのは、先生方は OK されたという、一緒に考えていきましょうということで、計画の変更はなしということでよろしかったでしょうか。

(事務局)宿泊棟の別棟については、委員から一部連棟も出来ないかというご意見もいただいておりますけれども、当初の計画どおりいくということで、学校関係者の方、また各団体等にも御説明をし、ご理解をいただいているところであります。

先日、熊本市小学校長会の会長さんとお会いして、新施設整備運営事業の概要を説明させていただきましたけれども、実際、運営に係る面については、校長会と連携をしながら、様々な意見を聞かせていただくということで、お話をさせていただいているところです。

(委員長)委員、よろしいでしょうか。

(委員) はい。建築的なお話も少しさせていただいても大丈夫ですか。

(委員長)はいどうぞ。

(委員)当初から少し変更が出てる箇所についての確認です。資料の図面、テントサイト、宿泊棟 B、A、C と段差がありますよね。高さ関係が 4 m 以上ある感じですよ。

市民の方からの意見にもありましたけれども、金峰山は滝のように雨が降りまして、湿度も常に 70%、80% ぐらいあるような、湿気の強いところなんです。今でも高低差があり、ぬかるんでいる状態なので、宿泊棟 B が大雨のときに、雨水があふれてこないかなという心配があります。

排水計画はこれからだと思うんですが、ここの部分の段差の排水計画をきちんと、結構な量処理しなきゃいけないと思いますので、どうなってるかを実施設計で対応いただければと思います。まず 1 点目は、全体配置計画です。

次に駐車場に関してです。次の図面で、駐車場の質疑の回答でも緑化を少し検討しますということでしたが、まず、車椅子駐車場に屋根があるのかということと、駐車場に少しパーゴラとか木陰をつくってほしいというところが、今の図面では見られないのですが、あるのか。駐車場の計画で、建物のところに屋根がありますということで断面図を見てるんですけど、車椅子の方はこれでは吹きさらしで、雨にぬれてしまいますので、屋根の庇のような形で下ないと、たぶん濡れてしまうんじゃないかなと、その辺りが全体の配置計画で気にな

ったところでは。

(委員長)まず、大雨の際の屋根についてですね。これについて、今の段階の計画を事業者の方よりお願いします。

(金峰山ビレッジ)環境デザイン研究所です。設計担当しているものでして、私の方から回答いたします。

まず、パーゴラ等の構築物は設けておりません。極力、平場で多目的に使えたらという話が駐車場ではありましたので、建築物としたものは作らない方向で進めていこうと考えております。あと、バリアフリー、車いす利用者様の駐車場に対する庇ですね、どのようになっているかというお尋ねですが、車椅子駐車場使用車両の駐車直上には屋根がついてないんですね。ただ、管理棟から、庇を2m程延ばすことで、管理棟の駐車場側の通路には屋根がかかっている状態です。管理棟に近い、車椅子利用者用の駐車場から庇にそのまま出ているような、計画にしていこうということで、バリアフリー団体側の方々と協議させていただいております。

あともう1件は、雨天時のバスの団体利用の際ですが、大屋根広場から庇が出ておりますので、そこに横づけしていただいて、雨がかからないように、そのまま大屋根広場のほうに移動していただくというような計画を考えております。

次に、排水計画です。確かにあそこが、排水計画が必要と認識しております。野外体験施設ですので、あまり舗装しないような形で熊本市と相談しながら、計画しようとしてるんですけども、砂利をメインにひいていくことで、水が浸透しやすい舗装、部分的にも舗装にしてあげるといことも考えられるのではないかと、今のところ考えております。

(委員)おそらく砂利ぐらいでは、追いつかないと思います。浸透柵を入れるなり、暗渠で配管を通して砂利をひくぐらいしないと、住宅のところはかなり、今は全部ここが土でも浸み込んでいかないんですよ。そして、崖地になっている方にある程度流れますけれども、建物が建って、土が減って、多分浸透ではちょっと追いつかないと思います。

市内が晴れていても金峰山は雨が降っているということはよくありまして、山頂の方がよく霧に隠れてですね。それ位雨がよく降る場所でもありますのでちょっと気になりました。雨水処理は、やっていただきたいと思いました。

車椅子の駐車場を少なくとも1台分は、やはり屋根はかけるべきかなと思いますので、連続するように、濡れないように、車椅子の方の乗り降りのときに1番濡れますので、1人で来られる想定をされたほうがいいと思います。当然介助の方がおられるってということもありますけど、今1人でも車でいろんな所に行かれる方も増えてきてますので、それで想定していただきたい。

あと、サイン計画色々な話が出た中で、ここのバリアフリーに関しては、車椅子マークだけじゃなくて、いろんな視覚障害の方、妊婦さんの方など色々な人が停められるようにサイン計画していただければいいなと思います。介助犬のスペースなんて今はちょっとないみたいですけども、多様な方に対応していこうというのを一度徹底してやってもいいのかなと思いますね。山の中なのでなかなか来づらいついていうのはあるんでしょうけど、徹底すれば、そしてむしろ逆に人が来ますので、少し気になったところです。

一つ皆さんと、是非とも協議しておきたい点がありまして、子どもさんのワークショップの中で、滑り台があるといいなって意見が出てるのは拝見したんですけど、この資料の中に、滑り台の計画が入ってました。

遊具の計画ですけど、ボルダリングと、それからツリーハウスっていうのは、子どもたちが意見の中から、階段をいかして、このアイデアは面白い。

この滑り台が人工的過ぎて、せっかくの景観を損ねないかという点と、むしろここで閉じた滑り台ではなくて、オープンもしくは透明にするとか、何か景色を見れるようなつくりならいいんですけど、人工的過ぎて、違和感があつたのですが、審議会の皆様いかがでしょうか。

(委員長)遊具のところ、非常にワクワク感を持てる子どもたちの施設かなと思ったのですが、まず滑り台が不自然じゃないかという件に関して委員の皆さんどうでしょうか。

(委員)これは、チューブにしてある理由はあるのでしょうか。

(金峰山ビレッジ)まず、チューブにしてある理由、閉じているというお話ですが、高さが5メートル位あります。かなり元気な滑り台でして、普通の公園にある滑り台のようなオープンでするとちょっと怖いんです。ただ高いとそれなりの魅力というか刺激はありますので。まず安全性をという意味で、チューブ状の滑り台を採用している計画です。

(委員長)恐怖感を抑えることが目的なのですね。

(金峰山ビレッジ)あとは落下を防止するためです。

(委員長)安全性ですね。皆さんいかがですか。

(委員)遊具計画のところ、新しく増えた滑り台とジップライン。ジップラインの方は、子どもたちの要求が強いのかなという印象でしたけど、滑り台の構造上は大丈夫なんでしょうか。風が強い時に飛ばされる恐れはないでしょうか。

(金峰山ビレッジ) はい。それは支障がないように計画いたします。

滑り台のチューブについては、遊具によく使われてる光を若干通す樹脂製のものを考えています。

(委員) 逆に言うと、子どもたちが順番を守らず、どんどん滑ってしまう可能性があるかと思えます。そういうことも考えると、この滑り台は非常にリスクが大きいのかなと素人の考えがあります。

(金峰山ビレッジ) そうすると、滑り台を設けるかどうかというお話になりますか。

(委員) そういったものを考慮して、作ってはいけないとかいうことじゃないんですけど、単純に考えてこれだけの長さ、高さがあるところを作ると構造上も、問題があるでしょうし、運用がやっぱりジップラインも含めて、相当難しくなっている。そんな懸念をしているところです。

(委員長) 安全対策という点では、正直、言って切りがないところもあるしですね。どうかなというふうに私も思います。それぞれメリット、デメリットあると思います。

(委員) 多分、あっちで出てくればいいんですけど、このジップラインをあそのスペースに置いた場合、ここで遊ぶスペースができると、駐車場から歩いてくるときのほかの人たちが、ここを避けて通らなくちゃいけなくなるので、かなり、通路として使えるスペースが狭くなってしまうのではないかと思ったんですけど。ただ、実際その配置にしたときの距離感が、見てみないとわからないというところですか。見た感じどうなんですか。

まずそれが一つと、滑り台ですね。滑り台が遊具としてあると思うんですけど、いざとなったら非常用経路になると思うんですね。幼稚園なんかはそういうふうに使ってますけれど、そういう視点で考えても、この構造で大丈夫なのか。

いざというとき避難経路としてみんなでさっといけるような、強度、角度ですね。その辺が、見た感じ少し欲しいかなと思いました。

(金峰山ビレッジ) 1点目がジップラインの位置ですが、おそらくご指摘いただいているのは大屋根広場の位置に設置されているというふうに認識されてお話しされると予想してはるんですが、実際はそうではなくて、大屋根広場と多目的ホールを挟んだ逆側にジップラインを配置しております。ですから、駐車場との動線の交差はございません。

2点目、避難用の滑り台に兼用出来ないかという点ですが、この滑り台では遊具仕様になっておりますので、避難用に実際は使えるかもしれませんが、しっかりした避難用滑り台

というふうなものの機能を確保すると、構造的にも、仕様のにも認定品になるんですね。当然、先ほど樹脂製と申し上げましたが、燃えてはいけませんので、ステンレス製とする必要があります。そこまでするのかという議論になります。

避難計画はどちらかという駐車場側への避難動線がメインになると考えられます。ですので、恐らく多目的ホールにいる人たちは、エントランスの方に出て大屋根大広場の方が駐車場に逃げる。が主として考えられます。

この図面で言いますと、どちらかという、向かって左側に避難するのは、1番安全なルートですし、誘導の標識もそちらに誘導するような標識になってくると思います。

ですので、この滑り台が仮に避難用となった方が、より安全ではあるんですけども、そのまま有効に機能するかというのはちょっと考えにくいというふうに私は考えています。あとは滑り台をどうするかという話ですね、また話がもとに戻りますが、皆さんの意見を考えて、我々も是が非でも滑り台が必要という訳ではなく、あったほうがより楽しい。という位置づけで計画しているところがありますので、熊本市さんとのご相談も踏まえながら進めていければと思います。

(委員長)これは、施設内の遊具ですので、私は、自治会の区長として、自分の公園のですね、遊具を色々扱った時に、国交省の遊具の基準がありますよね。それは全く考えなくていいか、大いに参考にされてると思いますが、そういった点ではどうですか、

(金峰山ビレッジ)そういう意味では、SPマークなどの認定マークは当然取得しています。

(委員長)配置場所が、例えばブランコは、スプリングの遊具と何m離しておかなければならぬとかがあると思います。そういうのはジップラインとか滑り台とかは、

(金峰山ビレッジ)それについては、安全区画、安全距離というのを確保しています。少し図面が見にくいですが、ジップラインの周りに薄い点線が示されているのですが、そこには何もなしにするというような安全領域を確保しています。他の部分についても所定の距離を確保するようにしております。あとボルダリングの場合は床を1番下の部分をゴムチップ舗装にしています。そういった対応を十分するようにしております。

また、先ほどの質問のジップラインの長さについて、20m位です。

(委員長)20mあれば結構長いですね。では、この滑り台についていかがですか。

(委員)これだけのものを設置するとなると、誰か付いとかなないと、自由に使わせられるの

かなという点があります。安全面で。全て閉鎖された形になっています。誰が下まで降りたのか、上の事業者が、確認できるのかな。だから、もし設置するのであれば、下の部分はオープンにするとか、透明な形にするとか。結局、1人が全部滑った後にしか次が行けないような、そういった運営が、運用が少し必要になってくるのかなという気がします。

子どもたち喜ぶと思いますけども、その辺の部分の何か配慮をどうしていくか、なかなかここに1人、係員を立てておくっていうわけにいかない。だからそこら付近は考慮が必要なのかなと思います。

それとこのジップラインの場所なんですけど、今の体育館があって、こっちに炊飯場があって、以前この下に倉庫があったんですね。だからこれを通して使ったりいろんな形をすること、体育館の下には用具倉庫はなくなったのでしょうか。

以前は貸出しの色々な物品がここに収納されてましたので、ジップラインと炊飯場に行く動線の関係で、使ってるときにどういう形になるのか、炊飯場はこの横になりますので、その辺がどうなってくるのか、配置関係の系統は必要になってくるのかなっていう気がします。

(事務局)ジップラインについては、子どもたちの意見でも長く遊びたい。よければ国有林の中に突っ切るようなものを作ってほしいというご意見もいただいたんですが、可能な範囲です。

当初提案書では、キャンプファイヤーサークルのほうにあったんですけども、金峰山ビレッジ様と話す中で、その長さの問題と安全管理、それから、ワイルドタワーに上る子どもたち、ジップラインで遊ぶ子どもたちを一同に団体指導者が見えるというのは、位置的にやまびこハウスからが1番安全上問題ないだろうということで、計画したところでございます。

委員がおっしゃった現体育館の地下には、今倉庫がございます。倉庫には、ジップラインのルートから入るのではなくて、ジップラインとワイルドタワーと滑り台の間の1か所、生け垣を開けて、そこから入ると、倉庫は体育館の下に設けますし、消火用の水槽であったりですね。また電気関係の設備、それを収納するスペースにしているところです。

滑り台の安全管理も当然重要だろうと思います。基本的には、施設管理者がきちんと利用者にご案内するとともに、ファミリーだったら保護者の方、また団体であったら指導者の方にしっかり安全管理をしながら、施設側と連携した運営をやっていくようにしていきたいというふうに考えています。

(委員長)原則的には利用者ですね。引率責任者は、安全管理を利用する子どもたちに、徹底させるということが原則になるんだろうとは思っています。

設備を作ったとなると、設置者責任も問われることもありますので、ここは慎重に考えたいと思います。ほかにございませんか。

(委員長)私も滑ってみたいと、どのぐらいの恐怖感があるのか限られてきます。

(委員)先ほど、委員から話があった排水の関係なんですけど、排水計画をきちっとした形にしとかなないと、結局、今降る量が相当増えていて、宿泊棟B棟の方に集まってしまうと、なかなか排水がうまくいかないというふうになって、以前のこの広場が雨が降った時の状況がどのくらいあったのか。そういったものは以前度管理されてる方々にも聞いていただいて、浸透だけじゃなくて、やっぱり強制排水でどちらかに持っていかないと、多分、はけないんじゃないかならうか。

以前の雨量は、1時間当たり100ミリとか降ってましたけど、今は150から200ミリ位降り、そうしたときには升の大きさとかですね、排水道幅の大きさが全然違う。だから、全体的な排水計画を建設専門の方々と話をさせていただいて、この敷地内の全体排水計画をどうするかっていうのは、今も検討されてると思いますけども、安全というか、洪水対策等も検討していただければなと思います。

(委員長)排水計画、遊具、特に滑り台については、再検討してもらおうという形でいいですか。この審議会では、それぞれメリット、デメリットありますし、ワークショップとはまだ開く機会あるんですか。

(事務局)新たなワークショップというのは考えておりませんが、引き続き、運営について、また運営中においても、利用者の皆様の意見をしっかりお聞きながら、それを運営に活かしていくということは続けていきたいと考えています。

(委員長)メインの利用者は、小学校5年生、発達年齢ですね。そういった子どもたちの意見、あるいは管理者の意見をもう少し聞いていただいて、最終的に決定いただければと思います。委員、そういうことでよろしいでしょうか。

(委員)元々自然体験をしに来る場所で、遊具で遊ぶ場所じゃないんですよここは。

そこが子どもさんの意見を聞くとどうしても引っ張っていかれるというふうに遊具に引っ張っていかれるんじゃないかと、アスレチックとか、ジップラインとかボルタリング、外で自然の中で遊ぶっていうことを体験するのはいいと思うんですけど。これは私は申し訳ないけど、要らないと思ってます。人工的すぎるし、閉じてるし、今安全面で閉じなきゃいけないんだったら、そんなものはもう管理しなければならないのであれば要らない。

なぜなら、さるすべりを上っていくんですよ皆さん、宿泊した子どもたちはもう十分恐怖体験、修験道の道ですからねあそこは。あえてここで遊ばなくても、むしろここで遊んでしまうと、他の自然体験がおろそかになる気がします。楽しいのはわかります。私もす

ぐこれがあれば、多分滑るでしょう。やってみたいと思うし、バンジージャンプなんかも、わくわく感はあるけど、あえてここには、要らないのではないかと思います。

大人が泊りの時も急にここだけが、せっかくコテージ風のいい景観のところ、何で滑り台なのみたいな。いうふうにお考えとしても、大人側からしても違和感があるのではないかと。ここまでやる必要はないと思います。個人的にはそんな意見です。

(委員長)自然の家がワンダーランドになるんじゃないかという話、心配ですけどね。恵まれ過ぎた遊具も、あれかなと思います。これは検討課題ということでよろしいですか。

(事務局)はい。ご意見をいただきましたので、安全面も含めたところを金峰山ビレッジさんと協議をしてみたいと思います。今のご意見から無くすという判断も含めて、検討していきたいと思います。

(委員長)確認ですが、滑り台を除去した場合でも、構造上問題ないでしょうか。

(金峰山ビレッジ) はい。構造上は問題ありません。私からもお話しさせてください。前提として、滑り台はあったほうが良いと思って提案しております。強いこだわりはありませんが、少し議論の余地はあるとは理解しています。ただ、この施設の集客性というものを考えたときに、魅力のある機能を設置するということはすごく有効だと我々は考えております。

100%自然が良いかというのは、本当にワイルドな空間というのは、人は行かなくなるので、言い方よくないですけど人工的な魅力的な機能を配置することで、よりこの施設にアプローチしていただく方が増えるというメリットはあると思います、ワイルドタワーと周囲の遊具を提案しているつもりでいます。

そのため、そのバランスについては、熊本市さんと議論しながら、方針を決めていこうと考えています。

(委員長)はい。集客性ということですね。デイキャンプ等、夏休みなど、市民が使われるだろうことも、前提に考える必要があると思います。議論は、この辺りでよろしいでしょうか。検討課題ということでお願いします。

それでは、協議2に移りたいと思います。基本設計について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)はい。基本設計についてです。まず最初に、新施設の整備基本設計を報告いただいているところでございますが、熊本大学大学院の大西教授に、新施設整備の情報をお渡しして、大学院生の皆さんと、宿泊棟のABC、それにワイルドタワーを含めるテントサ

イト、外構のVRモデルを作成していただいております。まず最初に、このVRモデルで新施設のイメージを直接体感いただければというふうに思います。

(委員長)それでは、VRモデルのVR体験をできるという、実際に委員の皆さんに体験していただきたいと思います。それでは、進行を大西委員にお願いしてよろしいですか。

(委員)はい、よろしくお願いします。

先にご説明を差し上げたいんですが、VR体験ということで、委員の皆さん一人ずつ、管理もしていただきたいんですが、酔いやすい方、苦手な方は体験を控えていただいたほうがいいかもしれないですし、早めに打ち切っていただいても結構です。

委員の皆さんが見られてる映像というのはこちらにも配信をしてますので同じものは見れると、ただこっち見てもちょっと酔ったりもしますので、時々目をふせたりしていただいてもいいのかなというふうに思います。

VRを作った目的というのは、なかなかその図面からはどうなっているかわからないってところもあるでしょうし、図面の縮尺もそんなに大きくはないので、細かいところはちょっとわからない。これはあくまで今まだ途中で、設計者の方々、施工者の方々、検討されてる段階ではあるんですが現段階でということ、どういうふうになってるのかっていうのを体験いただけるかなと思います。

なので先ほど御説明あったように宿泊棟と外の空間が中心でして、それ以外はあまり作ってないというのが現状です。

(VR体験の際の説明) 皆さん、見えていますか。

(委員長)はい。

(委員)これは、宿泊棟Cの1階です。

(以下操作方法等は省略、意見のみ)

(委員長)委員は、スクリーンで見えますか。

(委員)はい。A棟2階のロフトの窓が開放的だなと感じました。床の掃き出し窓みたいになってるように、図面では見えるんですけど、開けたら、出られるのでは。

(委員長)窓を開けて、子どもたちが出られる恐れがあるということですか。

(委員)そうですね。

(金峰山ビレッジ)確かに両側の窓は、開けるようになっていて、普通に開けて出ることができます。開閉する部分には柵をつけて、換気にも使えたらいいかなと考えています。

(委員)柵を付けると、せっかくの景観がどうでしょうか。手すりですか。

(金峰山ビレッジ)両脇だけ開くものです。両袖の開閉する部分のみ柵を付けます。

(委員)10cm位に開けるっていうか、その少しだけ換気用に開けるっていうような、保育園の施設なんかもそのストッパーを付けたり、できるような窓にしとかないと結構全部開くと、手すりがあっても、落ちますよね。小さい子は絶対のぼりたくなりますので。

(金峰山ビレッジ)開口制御でも大丈夫ですし、木柵のような手すりをつけるというのも、両方考えられます。

(委員)はい。対策をよろしく願いいたします。

(委員長)タワーの高さは何m位ですか。

(金峰山ビレッジ)タワーの高さは、ファイアーサークルから10m位です。

(委員長)2階建ての屋根より高いですか。

(金峰山ビレッジ)軒先より少し高いです。

(事務局)デッキテラスは、ちょうど体育館の屋根の高さ位です。

(委員長)回廊は透水性の舗装ですか。

(金峰山ビレッジ)回廊は雨が直接降らないため、透水性の舗装ではありません。コンクリートのたたき若しくは土を固めた舗装にしています。

駐車場の部分はアスファルトの透水性のアスファルトにしておりまして、左のメンテナンス車道の部分は、現状の草地のままである種の透水性はあるという計画にしております。

(委員長)回廊の幅は2.6mですか。

(金峰山ビレッジ)回廊の幅は1.8mです。

(委員)建物の横風、吹抜けのところが少し心配です。

(委員長)風向きによっては、相当吹き込みますね。直接、2階へ上がれるのですか。

(金峰山ビレッジ)そうです。

(委員)雨の時は、傘を持って歩けばよい。傘立てをちゃんと各場所で設置してもらえばいいのではないですか。

(委員長)やはり移動中の雨の降り込みが気になりますね。傘を持って動くの。

それから右の道は、車が通れるのでしょうか。

(金峰山ビレッジ)車が通れるようにしているのですが、そう見えないので、通れるようにします。

(委員)この柱の下の側溝は入りますか。

(金峰山ビレッジ)この右側に見える茶色の部分がほぼ水みちになると思います。そのまま今歩いている方向に浸透しながら雨水が流れていくので、先にいくとファイアーサークルがあって、そちらで積極的に受け止めてあげて、徐々に処理していくというイメージです。どうしても今見えている右側のところは水みちになってしまいます。

ベースの部分は少し上げてあげて、水浸しにならないようにしてあげて、当然建物も更に上げることで、雨水の浸透がないという計画になっています。

(委員長)大規模開発するときには、いわゆる排水池を書かなくちゃいけないけど、その役目をファイアーサークルが満たすということですね。

右側のテントサイトとのがけは、芝がしっかり活着して、土砂の流れを止めてくれればいいのですが、それまでの間が心配ですね。

(金峰山ビレッジ)場所によってはですね、蛇籠で土留めをつけようかと考えてます。芝だけで押さえるのではさすがに難しい部分もありますので、蛇籠ですね。

(委員長)流れる心配がありますね。

(金峰山ビレッジ) そうですね。なかなか魅力的な地形です。ここのボルダリングの高さは1.8m位の高さになります。

そんなに高いものではないので、小さい子ども登れるものになり、本格的なものではありません。どちらかというと、これを使って、ワイルドタワーなど、いろんなところに移動していただくものになります。

活発な活動を促すためにいろんなところをぐるぐる回るようにしておくことがすごく大切だと我々は考えております。そういう意味では本来は立体的に、真ん中の階段を使いつつ、ボルダリングを使いつつ、上下に移動をしながら、滑り台も使って下に移動していただき、そこから上に上ってぐるぐると活発に移動していただく予定です。

(委員長) 子どもは砂をしいておかないと、尻もちをつきますね。

(金峰山ビレッジ) そうですね。今、そこはゴムチップを敷いています。大きき感としてはこのぐらいの大きき感ですね。下に、消火水槽がありましてそこも残しつつ、やらないといけません。

(委員長) 5年生だったら、少々冒険心をくすぐらないといけませんので、この程度の滑り台は大丈夫ではないかなと思います。

(金峰山ビレッジ) 正面に見えるのがジップラインです。

(委員長) ワイルドタワーの色は、白の予定でしょうか。

(金峰山ビレッジ) これはモデルがそのままになってしまっておりますが、どちらかというと、回廊のベージュっぽい色で考えています。

(委員長) 少し違和感がありますね。宿泊棟の木造とマッチしている色がいいですね。

(金峰山ビレッジ) VRを見ながら野外炊飯棟、やまびこハウス、駐車場施設の説明。

先ほど多目的ホールの地下の目隠しのお話がありましたが、今生け垣をこのように配置して、ジップラインを利用した子どもが侵入しにくくしております。生け垣は1.8m位あります。

これで出入りを制御して、右側の滑り台の下側から入れるように、そこだけは隙間を作っています。

(委員長) 空間を有効活用できるようにスペースがあるということですね。

(金峰山ビレッジ) はい。奥は機械室や物置になります。

(委員長) それでは、次の VR は委員がおっしゃっていた宿泊棟 A の 2 階ロフトの部分をお願いします。

(委員) 見えますか。何かリクエストありますか。

(金峰山ビレッジ) VR をロフトの上に移動していただけますか。

(委員) そこです。そこが、このままだと外へ出れてしまいます。緑が眺められてとてもいいと思いますが、開放感もあるので、小さめにして、柵などない方がいいと思います。

(委員長) ホテルなどの宿泊施設では、少ししか開かない窓がありますよね。

(金峰山ビレッジ) そうです。ストッパーを付けることもできます。それでいきましょうか。

(委員) せっかくの景色を取り込んでいっしょにいますし、なかなかこういうロフトはないと思います。

(委員長) これまでの経験ですと、出れるのであれば、必ず子どもは出ます。そして出て別の部屋へ行きます。

(金峰山ビレッジ) 落下してしまうと 2. 3 m ほどになるかと思います。

(委員) 宿泊棟なので、たくさん光が入ってくると思うのですが、ブラインドとかカーテンなどは付けられますか。

(金峰山ビレッジ) カーテンだと、子どもがひっかかったりする可能性がありますので、基本的にロールスクリーンを付けます。

(委員) ありがとうございます。よくわかりました。

あと、全体的に気になったのが、やはり柱がずいぶん外に露出して出てきてるようなので、機能は足元の腐れ防止ですね。単純にブロックのようにちょっと載せて、金物で止めるっ

ていうようなあれなのか、銅板巻きにするのかどうか。何かその防腐処理、結構水たまりになることを想定でやらないと、すぐに、腐り始めるなあというのが少し懸念としてあるのと。軒裏が腐ってくるんですよね。雨水が垂れてずっと残るので、軒裏のあたりの水切を付けるとかしないと。かなり、塗装だけでは、駄目ですよということだけちょっと。どうしても。

(金峰山ビレッジ) 回廊については基本的に鉄骨造にしています。あとは溶融亜鉛鍍金を施しているのですが、耐久性は高いかなと考えています。

(委員) 木のように見えたのは、ただ色が茶色いだけですか。

(金峰山ビレッジ) はい、塗装になります。ただ、大屋根広場の柱については、木架構にしています。ただ、大屋根に囲まれているので、柱自体の露出が少ないため、腐食は少ないと思います。ただ、柱脚部分については、コンクリートの立ち上げ等、工夫が必要かなと考えております。

(委員長) ここで意見交換をしたいと思います。委員の皆さんから質問等ございませんか。

(委員) 以前から気になっておりました、どうしても木造で1階、2階となると、2階の物音が1階に響くと思います。先ほどその連棟にしない理由というのは、たしかご提案の時に、独立性を高めて、子どもたちだけではなくて、ファミリーだとか、大人になってからも、静かになっていくか、それぞれの活動を認めた上で思い思い過ごせるようなお話があったと思うのですが、どうしても木造で1、2階に、違う家族が入ってしまうと、耐え難い音などあるのではないかと。例えばジャンプしたりとかすることもあると思います。

左右の音はある程度対策がとりやすいと思うのですが、上下の音っていうのは本当にたちが悪くて、その辺りどういうふうと考えられてるのかなという点を教えていただきたい。

(金峰山ビレッジ) 上下の音、確かに木造ですと完全な遮音というのは正直出来ません。どうしても、コンクリートと比べると遮音性は極めて落ちてしまいます。ここは、どこまで対応できるかという議論になってきます。設計上は、2階の床の路地板の上に12.5mmの強化石膏ボードを2枚重ね張りして、遮音性を高めるという配慮はしております。ただそれでも、2階で飛び跳ねられたらどうしても音は響いてしまいますが、できる限りの配慮はしております。

(委員長) 原則として、同じ棟に他の団体のファミリーが入るということはないでしょう。

(事務局) 学校利用がない場合は、例えばスポーツ少年団の団体が入る、その隣にファミリーが入るといったことはあります。

(委員長) では、上下で異なるファミリーが入ることはないですね。

(事務局) 1棟の中に1階部分と2階部分がありますが、夏休みなどのシーズン中、多くのファミリーの申込みがある時などは、1階と2階が別のファミリーになることはあります。

(委員長) それではやはり音が気になりますね。

(委員) それはやはり厳しいのではないかなと思います。例えば、異なる団体、家族が1階と2階にならないようにするというような、運用上でカバーするしかないのではないかな。フルで予約を入れてしまうと少し難しいのではないかと感じました。

もちろん、飛びおりたりするとかなり響きますが、普通に歩いただけでも、普通に足音が1階に響くと思いますし、夜中だと音がする等は結構あると思います。

集団の場合は指導で、上下でも何とかありますが。建築的には相当厳しいと思うので、やはり運用上で初めから見込まないといけないと思う。

(事務局) はい。当然、状況も把握しながら、満室でない場合には当然、1棟に1家族という感じになるかと思っています。その状況を見ながらまた、運営の方で配慮しながら行う必要があると思います。

(委員長) 他にございませんか。

(委員) 補足すると、木造でも遮音床は商品としてはあります。ただ、コストとあと今の懐でできるのかなとは思いますが。要求水準書の時にも、他の委員さんも気にしていた部分です。そういった遮音床も検討されてみたらいかがでしょうか。

集客を考えるとすれば、音がうるさくて眠れなかったとかの評価がついてしまうと、後々宿泊客が減るのではないのでしょうか。

(金峰山ビレッジ) 確かにそういう製品はございます。検討しましたが、かなりの金額になりますので、どこまでやるかですが。その辺りの検証を進めさせていただきます。

(委員) それでは、宿泊の方には最初から上下の音がすることを言っておいた方がいいと思います。上下に配慮した使い方をお願いする。宿泊費も、今の想定だとそんなに高くあ

りませんし、ホテルとは違う点を、うりにされるといいのではないのでしょうか。

やはり、遮音床は高いですし、ミシミシキシキシといったキシミ音がすることは木造のよさでもありますので、最初に音がすることをはっきりおっしゃっておけばいい気もします。音に過敏な方が泊まる部屋や発達障害の方とか、CSの方用に造られている部屋については、しっかり遮音をするとか、何か少しすみ分けがあってもいいかもしれないですね。

(委員長) 音は覚悟で、ご利用されるんじゃないかなと思いますけどね。

ほかにご意見はございませんか。

(委員) 地元の意見交換会の中で、獣害対策が出ていました。我々が見に行った時にはファイアーサークル、あのあたりが掘られていました。恐らく、猪が毛づくろいでもしていたのかなと思います。移動していますし、わからないですよ。食べ物を取りに来るときには、突進して、壊す可能性もあります。

それなので、その辺の対策は、実際に始まってからじゃないと出来ないかもしれませんが、猪が絶対に入ってくないということは恐らくないと思いますので、地元の方がおっしゃっているとおり、電気柵をどこかで検討しないとイケないのかなと思います。

(金峰山ビレッジ) そうですね。私も掘り返されている現地を拝見しました。土を掘り返して、ミミズなど土の中の虫とかを食べているのではないかなと思います。今は休所中で、人のプレッシャーがない環境の中で自由に、来ているのかなと思いました。

あと、現状、駐車場部分から敷地境界まで、ぐるっと柵では囲む計画であります。出入口のところはアコーディオン式のフェンス柵で、大きな猪は通り抜けられません。

舗装についても掘り起こしがしにくい舗装にする計画にしており、一定の害獣の侵入対策はしています。ただ、猪ですと100キロを超えたりしますので、車が衝突するような衝撃があったりするのですが、そこまでの対策は出来ておりません。

今後開館し、利用者がありますと、人が頻繁に出入りするようになりますので、今より猪などの害獣はなかなか来にくい状況なのではないかなと、予想しつつ期待をしている状況です。

(委員長) そろそろ時間が気になりますので、最後にどなたかご意見ありますでしょうか。

(委員) 細かい部分になりますが、回廊ですね、屋根は付いているのですが、皆さんがおっしゃってるように、完全に雨が降ったら降り込むような状態ですよ。

場所によっては、例えば、回廊の扉のところだけ、戸の蛇腹の板をつけるというような木の戸で目隠し的な感じにするようなところを設けると、例えば出入りするときに雨が降

り込まなかったり、あと戸を開けて中が丸見えじゃないとか、そういうような効果が期待できるのではないかなと思うのですが、そういうことはできるのでしょうか。

(金峰山ビレッジ) 確かに人の交錯する部分については柱とか張りなどの受け材のようなものをあらかじめ取付けて、東北でいう雪囲いみたいなものをつけるような仕組みは作れるとは思いますが。

(委員長) 私もVRを見ながら、ちょっと気になっていました。それから、乾燥室はどうだったでしょうか。

(事務局) 以前は利用されていましたが、今後の設置について、現在SPCと話しておりますが、設置はしない方向で検討しています。その分雨具や靴が濡れた場合の対応は、やまびこハウスを活用して、工夫をしながら対応できないか検討しているところです。

(委員長) 敷地の面積も限られておりますし、経費的にもどうかと思ってお聞きしました。また、VRのおかげで、随分具体的なイメージができました。私も期待感がますます湧いてきた次第です。それでは熊大の皆さま、ありがとうございました。

(事務局) 最後に事務局より今後のスケジュールを報告させていただきます。

皆様の机上に現時点での施設解体中の写真を載せております。3月末までに室内の備品や空調設備を撤去し、4月から近隣住民の建物調査に入り、施設の解体に着手をしたところです。現在、写真でご覧のとおり、室内の建具などを撤去し、体育館や煙突については、アスベスト処理の必要がありますので、それを専門業者の方に現在作業をしていただいているところです。本格的には、7月から8月にかけて、実際の建物の解体という当初の予定どおり進んでいるところです。

あわせて実施設計に入っており、引き続き、障がい関係団体の皆様とか、また関係部署との調整をしているところです。あわせて、地元の方々への事業進捗状況を自治会を通して御説明をしていきたいというふうに考えております。

それから、当審議会ですが、7月下旬から8月10日までの間に、皆様の日程をお聞きし、本年度第2回の整備運営審議会を開かせていただきたいと思います。

本年10月に建築確認申請を関係部署のほうに行いまして、来年1月から、実際の建設、改修、外構工事に入っていきたいと考えております。

それから、建設に関しましては設計モニタリング及び建設モニタリングを、市と九州経済研究所様とともに、金峰山ビレッジ株式会社へのモニタリングを実施してまいります。

令和7年1月に建物が完成し、完了検査及び所有権移転となりますが、令和7年4月からの供用開始に向けまして、令和6年4月に、金峰山ビレッジ株式会社様を正式に指定管理者に指定し、本格的に運営準備に入っていただくスケジュールです。

また、金峰山ビレッジ株式会社様との定例会議については、随時行っていく予定です。

以上、今後のスケジュールでございます。

(委員長) はい。ただ今、今後のスケジュールについて説明がありました。

何か質問ございますか。よろしいでしょうか。それではこれで協議を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

(事務局) それでは、委員長、長時間にわたりましてご審議いただき、ありがとうございました。これをもちまして、第1回運営審議会を終了いたします。

本日はありがとうございました。